

玉野総合医療専門学校

# 自己点検・評価報告書

玉野総合医療専門学校 自己点検・評価委員会



平成30年度

## 目次

---

目次	1
自己点検・評価報告書の作成にあたって	2
評価方法について	3
1. 評価項目の達成及び取組状況	4
(1) 教育理念・目標	4
(2) 学校運営	5
(3) 教育活動	6
(4) 学修成果	11
(5) 学生支援	17
(6) 教育環境	20
(7) 学生の受入れ募集	20
(8) 財務	21
(9) 法令等の遵守	21
(10) 社会貢献・地域貢献	22
(11) 国際交流	23
2. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	24
編集後記	25

## 自己点検・評価報告書の作成にあたって

---

学校法人加計学園 玉野総合医療専門学校  
自己点検・評価委員会 委員長  
校長 平井 義一

学校法人加計学園・玉野総合医療専門学校は、玉野市よりの設置要望に基づいて、医療福祉の専門学校として平成10年に発足した。現在は、4年制である保健看護学科・理学療法学科・作業療法学科と2年制である介護福祉学科の計4学科体制で運営している。定員は各学科40名である。4年制学科を卒業すると高度専門士の称号が与えられ、大学院へ直接に入学可能である。本校の特色として、保健看護学科では、全学生が卒業時に看護師と保健師との双方の国家試験受験資格が得られる統合カリキュラムを行っている。このカリキュラムを維持している学校は全国でも少ない。このカリキュラムにより、勉学はハードであるが、看護師として働く上でも、豊富な知識量や深い理解力が役立っている。また、理学療法学科・作業療法学科では4年制の利点を生かし、充実した実習や卒業研究を行っている。さらに、理学療法学科・作業療法学科では令和2年に内容が大幅に増加した新カリキュラムに移行するが、これにも4年制の利点を生かして順調に対応を図っている。

このように、特色あるカリキュラムを行っているが、特色を発揮できるように学生を支えられる有能な教職員の存在と全体のまとまりが本校の最大の誇りである。平成30年には開校20周年を迎え、記念式典を行った。学校としては発展途上であるが、この20年間の卒業生は岡山県のみならず、中国・四国地方の病院や施設で活躍しており、大きな評価をいただいていることに感謝申し上げる。卒業生への評価が真の学校評価である。

上記のように、本校では常に教育に努力を重ねているが、現場では年毎の重なりからマンネリとなっていく。学生は毎年に入学者、やがて卒業するが、教職員は長期に勤務するのが当然であり、学生気質・社会状況・医療関連知識の変化に対応していくことが困難になることも考えられる。どこかで立ち止まり、評価・反省を行い、新たな出発とすることが必要であろう。このための一つの手法として自己点検・評価は重要である。

今回の平成30年度自己点検・評価報告書では平成27年度から平成29年度の活動を対象に評価を行った。評価項目・方法は、前回の平成27年度版（平成23年度から平成26年度）と同様に、専修学校における「学校評価ガイドライン」（文部科学省）に例示されたものを参考にして評価項目を設定し、4段階評価（適切・ほぼ適切・やや不適切・不適切）を行った。

近年は、特色・教育方針を明確提示するビジョン・アクションプランの策定を行う学校も増加してきた。本校でも既に策定した。次回からは、ビジョン・アクションプランに基づく評価をKPI指標（Key Performance Indicator:重要業績評価指標）を用いて行いたい。

また、近年の情報公開への流れは当然のことであり、本校でもこの自己点検・評価報告書を公開するものである。

## 評価方法について

本報告書は、平成 27 年度から平成 29 年度の活動を対象に行った自己点検評価をまとめたものである。点検評価は、平成 27 年度と同じ以下の方法で行った。

### 項目

『専修学校における学校評価ガイドライン』（文部科学省 生涯学習政策局 平成 25 年 3 月策定）に例示された『専門学校の評価項目・指標等を検討する際の視点となる例』を参考に評価項目を設定した。

評価項目は、大項目として（1）教育理念・目標、（2）学校運営、（3）教育活動、（4）学修成果、（5）学生支援、（6）教育環境、（7）学生の受入れ募集、（8）財務、（9）法令等の遵守、（10）社会貢献・地域貢献、（11）国際交流とし、それぞれの大項目に具体的な評価項目を設定した。

### 評価

評価は、具体的な評価項目ごとに 4 段階で行い、十分満足できる評価の場合、『適切な 4』、概ね満足できる評価の場合『ほぼ適切な 3』、やや不満の残る内容の場合、『やや不適切の 2』、大いに不満がある場合、『不適切の 1』とした。また、学科間で評価に揺らぎがないよう評価の尺度について事前に調整を行った。

評価にあたり、なるべく具体的な数値を用い検証し、報告書には検証に用いた客観的なデータを可能な限り明示した。

### 考察

上記の評価を基に『現状と課題』、『今後の改善方策』に分けて記載し、長文を避け概ね各項目 200 文字程度にまとめた。

『現状と課題』では、評価の経緯と課題について記載し、洗い出された課題について明記した。複数の課題が存在する場合は、特に顕著な課題を中心に記載し、今後の改善方策につなげることとした。なお、課題がない場合にもその旨を明記した。

『今後の改善方策』では、課題への対応について具体的な方策を明示した。複数の課題がある場合、あるいは課題解決に複数年必要となる場合は、優先順位が高いものから順に制限文字数を意識しながら対策を明示した。

また、『特記事項』では、補足説明がある場合に記載することとした。

### 学校の教育目標・重点的に取り組むことが必要な目標や計画

今回の自己点検・評価は平成 27 年度から平成 29 年度の過去 3 年間の取り組みについてとりまとめた。平成 30 年度からは新たに策定したビジョン・アクションに関する評価を、KPI 指標を用いて行う。

## 1. 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標

#### 学校全体

評価項目	自己評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生、保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### 学校法人加計学園

##### 建学の理念

ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し  
技術者として社会人として  
社会に貢献できる人材を養成する

#### 玉野総合医療専門学校

##### 学校の理念

保健・医療・福祉のトータルケアの実現と一人ひとりがお互いに人権を尊重し地域社会において健康で心豊かな生活を営み  
すべての人が等しく生きる社会の実現＝ノーマライゼーションの実現

##### 教育方針・目的

21世紀の福祉社会が求める専門職育成を目指す

##### 学校の校是

「学」 一人ひとりがお互い豊富な専門知識・秀でた国際感覚  
「術」 優れた専門知識  
「道」 高い倫理観・豊かな人間性

### ① 現状と課題

当校は、経営母体である学校法人加計学園が掲げる建学の理念の下、明確な教育方針・目的ならびに校是を掲げ、教育活動を行っている。保健師、看護師、理学療法士、作業療法士および介護福祉士の国家資格を取得するための教育課程を有する厚生労働省の認可を受けた養成校として、社会のニーズに合致した人材育成のため、地域社会と連携し活動を行っている。また、急速に変遷する現代社会に対応すべく将来構想についての協議も行っている。

### ② 今後の改善方策

今後も医療・福祉のスペシャリストを養成することに尽力すると共に、社会のニーズの変化にいち早く対応できるよう社会の状況の変化に対しても注視し、10年先を見据えた将来構想を掲げ展開していく。

---

## (2) 学校運営

---

### 学校全体

評価項目	自己評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### ① 現状と課題

学則の下、定められた教職員、役職者を配し、教育活動、学生支援活動等を行っている。教育活動、学生募集活動を始め社会貢献活動などは、年間計画を策定し計画的に実施している。

意志決定のプロセスは、校長の指揮の下、職員会議、学校運営会議他各種委員会において、課題や新たな取り組みについて協議を行う制度を設けている。また、各種委員会の記録を学内 E-mail にて配信し、学校全体での情報共有化を図っている。また、個人情報を除くデータは、共有サーバーで一元管理をしている。

## ② 今後の改善方策

現在行っている活動を検証しながら、ニーズに合った活動を今後も継続していく。  
また、更なる業務の効率化を推進するために情報管理の方法等の改善を図る。

## (3) 教育活動

### 保健看護学科

評価項目	自己評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

## ① 現状と課題

看護教育の内容は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下「指定規則」という。）および看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン（平成27年4月1日から適用）に基づき実施している。平成23年のカリキュラム改正における看護師基礎教育では、「健康の保持増進、疾病の予防に関する看護の方法を学ぶ内容」、「成長発達段階を深く理解し、様々な健康状態にある人々及び様々な場で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ内容」が加えられた。統合分野の在宅看護論では、多様な場で療養生活に対応した教育内容を展開できるように、「在宅」と示していた箇所を「地域」に変更された。保健師基礎教育は、修業年限が「6か月以上」から「1年以上」に延長したことに伴い、総単位数が「23単位以上」から「28単位以上」に増加、健康危機の予防や対処のために、行政保健、産業保健、

学校保健の各領域において、健康危機のアセスメントを行う教育や、地域全体の健康状態の改善・向上を強化できる教育が求められた。

このようなカリキュラム改正の趣旨を踏まえ、講義・演習・実習の効果的な組み合わせを基礎分野、専門基礎分野、専門分野、統合分野の教員が分野を超え、講義計画を検討、共有し、実践している。臨地実習においては、学生が実際に体験できる機会を多くし、体験の振り返りによる学習効果を上げるよう、実習施設を新規に開拓し、医療の場のみならず、療育、学校など地域に拡大し、臨地の実習指導者と協働・連携を図っている。

教員の研修では、OJTによる教員に必要な能力育成を図っている。また、研修会や研究会、学会への参加による自己研鑽に努めている。

## ② 今後の改善方策

看護学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 29 年 10 月）および公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 30 年 3 月）、看護基礎教育検討会議（平成 30 年 4 月～）報告書などにに基づき、社会の変化に対応したカリキュラム、教授方法の検討を進める。

## 介護福祉学科

評価項目	自己評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

自己評価 適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1



### ① 現状と課題

教育理念、教育目標、科目が一貫性のある内容となるようカリキュラムを編成している。

介護福祉士養成課程を修了した者に付与されていた介護福祉士国家資格が平成 29 年度より、介護福祉士国家試験受験資格の付与に変更となり、卒業予定者全員が国家試験を受験した。

介護福祉士の国家資格取得の制度が変更となったが、国家試験受験に合わせてのカリキュラム変更は行っていないが、授業内容を精査し、平成 29 年度 2 年次に国家試験受験対策の時間を設け、専任教員と非常勤講師が連携し取り組んだ。

教員の資質向上については、日本介護福祉士養成施設協会の教員研修への参加、学会への参加等を通して自己研鑽を図っている。しかし、業務の多忙さから、学会参加や研修受講の機会は十分とは言えない。

### ② 今後の改善方策

国家試験対策においては、引き続き授業内容の工夫、国家試験対策講座を行い合格率向上に取り組む。また、国家試験の結果を分析し、評価を行い、翌年度の対策を立案する。

教員の資質向上に向けて、学会等に参加した教員が伝達講習を行うなど多忙な中でも研修効果を高める工夫をする。

## 理学療法学科

評価項目	自己評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### ① 現状と課題

平成 22 年度にカリキュラム改訂を行ってから 8 年が経過している。入学生の学力低下に伴い、学習支援として入学前課題および入学後のリメディアル教育を実施しているが、学習習慣の修得は十分とは言えず教育指導方法の見直しが必要である。また、国は理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則の改正を予定しており、現行カリキュラムにおいても若干の見直しが必要である。

一方、教員の研修制度がないことから、臨床経験者および卒業生を迎え入れ、現場経験豊富な教員の確保に努めている。また、新たに入職した専任教員については、順次、理学療法士・作業療法士養成施設等教員講習会に参加し、教育・指導力の向上も図っている。しかし、毎年 2、3 名の教員が全国学会等の研修会に参加しているものの、普段は学校業務に追われ、十分な自己研鑽の時間がとれていないのが現状である。

### ② 今後の改善方策

カリキュラム改訂については、科目によって履修時間数を変更し、空き時間を利用して予習・復習の時間を増やすよう計画している。また、学生に対しては、定期的な小テストの実施や口頭試問、グループ学習等の機会を多くするなど、アクティブラーニング方式を取り入れる。

教員の教育・指導力の向上については、臨床現場への研修制度の導入や指導者としての資質向上のための取り組みを積極的に行っていく。具体的な方策として、日本理学療法士協会主催の学術分科会や日本リハビリテーション協議会主催の学会・研修会等に積極的に参加する。

## 作業療法学科

評価項目	自己評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### ① 現状と課題

教育到達レベルに関しては各教員が個別的に設定している状態であり、学科としての基準を設けていない。また、現在臨床現場で作業療法を実践している専任教員がいないため、講義内容が実践的であるとは言い切れない。

### ② 今後の改善方策

2020年度入学生よりカリキュラムを改変する予定であり、現在の課題となっているカリキュラムに関する項目に関しては改善する予定である。また、実践的な講義内に関する課題では教員が臨床現場で対象者と関わる機会の確保が望まれる。

## 学校全体

評価項目	自己評価
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### ① 現状と課題

本校では、授業観察および授業アンケートを実施し、授業の評価を行っている。問題のある場合は、ヒアリングを実施し適正な授業となるよう努めている。また、厚生労働省所管の国家資格取得を目指す養成校として、定期的な実地視察において、教育内容などの外部監査を受けている。また、学則、履修規程などで進級基準などを、科目ごとの成績評価はシラバスで明示している。教員へは個人研究費を支給し、専門分野の研修や学会参加などを促進している。

### ② 今後の改善方策

引き続き、教育活動、研究活動の充実を図るために、学会、研修会への積極的参加を促す。

## (4) 学修成果

### 保健看護学科

評価項目	自己評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### 国家試験合格率

看護師	当校（現役）	全国（現役）	当校（既卒含む）	全国（既卒含む）
第105回（平成27年度）	97%	94.9%	94.3%	89.4%
第106回（平成28年度）	97.2%	94.3%	94.7%	88.5%
第107回（平成29年度）	100%	96.3%	97.4%	91%

保健師	当校（現役）	全国（現役）	当校（既卒含む）	全国（既卒含む）
第102回（平成27年度）	75.8%	92.6%	72.2%	89.8%
第103回（平成28年度）	83.3%	94.5%	80%	90.8%
第104回（平成29年度）	58.3%	85.6%	55.3%	81.4%

### 退学率の推移（過去3年間）

項目	H27年度	H28年度	H29年度
在籍者数	161人	155人	167人
退学者数	10人	6人	15人
退学率	6.2%	3.2%	9.0%

### 年度別学年別在籍者数・退学者数

平成27年度	1年	2年	3年	4年
在籍者数	46人	40人	40人	35人
退学者数	4人	3人	1人	2人

平成28年度	1年	2年	3年	4年
在籍者数	40人	41人	37人	37人
退学者数	2人	3人	0人	0人

平成 29 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
在籍者数	57 人	37 人	37 人	36 人
退学者数	6 人	7 人	2 人	0 人

A0 入試による入学者数・退学者数・留年者数の推移と退学者総数の推移

	H27 年度生	H28 年度生	H29 年度生
A0 入試での入学者数	11 人	8 人	10 人
うち退学者数	3 人	1 人	2 人
うち留年者数	1 人	2 人	0 人
退学者総数	11 人	2 人	5 人

### ① 現状と課題

就職率は、国家試験資格取得したものについては 100%であり、目標達成できている。看護師および保健師国家合格率については、看護師は全国平均を上回っているが、保健師は全国平均を下回っている。

退学率は 3.2~9.0%となっている。一人ひとりの学生への細やかな生活・学習支援に努めており、退学者は明確な理由による進路変更である。

平成 25 年度入試から A0 入試の面接時に読みと計算問題を口頭試問として組み込んだことにより、退学率は低減できていると考える。

卒業生の社会的評価の把握は、卒業生からの報告、実習施設や看護協会を通じて把握している。

### ② 今後の改善方策

保健師・看護師統合カリキュラム教育校としては、保健師国家試験合格率を上げるよう、模擬試験低得点者への学習支援を強化していくことはもちろん、1 年次から 4 年次までの一貫した国家試験対策となるよう、学年コーディネーターを中心に企画・実施。また、チューターによる学習支援も併行していく。

卒業生の動向の把握は、同窓会との連携を図り、体制整備を検討する。

## 介護福祉学科

評価項目	自己評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	3
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3
---	---

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### 国家試験合格率

介護福祉士	当校	全国
第30回（平成29年度）	66.7%	70.8%

#### 退学率の推移（過去3年間）

	H27年度	H28年度	H29年度
在籍者数	44人	34人	17人
退学者数	3人	3人	0人
退学率	6.8%	8.8%	0%

#### 年度別学年別在籍者数・退学者数

平成27年度	1年	2年	合計
在籍者数	26人	18人	44人
退学者数	3人	0人	2人

平成28年度	1年	2年	合計
在籍者数	11人	23人	34人
退学者数	2人	1人	3人

平成29年度	1年	2年	合計
在籍者数	8人	9人	17人
退学者数	0人	0人	0人

### ① 現状と課題

退学率低減のための学科の取り組みとして、教員が学生との関係づくりを密にして学生に関する情報を早期にキャッチするようにしている。学生に関して気になることを教員間で共有し、学科教員で解決できないことは必要に応じてカウンセリングにつなげる、保護者との連携を図って問題解決につなげるなどを行っている。1年次には保護者会、2年次には三者面談を開催して保護者との情報交換を行い、学生の学校生活継続を両方でサポートする体制をとっている。

平成27年度、28年度の退学の理由は、進路変更、学業不振であった。進路変更を生じさせないための方策として、高校訪問やオープンキャンパスを通して、受験する生徒と高等学校の先生への職業理解を促している。学業については、科目履修で生じた問題については担任をはじめとする学科の教員がサポートをし、介護実習で生じた問題については学科教員と実習指導者が連携をとりサポートをしている。平成29年度、退学者はいなかった。

資格取得に関する取り組みは、次の4つのことを行ってきた。1つは学生への介護福祉士国家試験受験の動機付けをすること。2年次7月の三者面談で保護者にも伝え、学習の協力を得るようにした。2つめは国家試験を意識した授業内容にすること。3つめは過去問題や模擬問題を中心にした国家試験対策の時間をもうけること。これは2年次後期の空きコマを利用して行った。そして、4つめに介護福祉士養成施設協会の学力評価試験を実施した。学力評価試験受験は希望者としたため、受験したのは2名であった。以上のことを実施した結果、介護福祉士国家試験は9名全員が受験し、合格6名、不合格3名であった。今後、国家試験の合格者増に向けて、取り組みの工夫が必要である。

在校生の社会的な活躍と評価については、担任が中心になって学生から情報を得ている。卒業生に関しては、卒業生の来校時や実習施設においての実習指導時に情報を得ているが、積極的な状況把握はできていない。

## ② 今後の改善方策

退学率低減の取り組みは、現在の方法が一応の成果を上げているため継続して行っていく。国家試験合格者増に向けては現在の方法に加え、学生のモチベーションを高めるために出版社の模擬試験を取り入れていく。

## 理学療法学科

評価項目	自己評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	2
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### 国家試験合格率の推移（平成27年度，前年度）

理学療法士	当校（現役）	全国（現役）	当校（既卒含む）	全国（既卒含む）
第51回（平成27年度）	83.3%	82.0%	71.0%	74.1%
第52回（平成28年度）	100%	96.3%	93.9%	90.3%
第53回（平成29年度）	86.1%	87.7%	86.1%	81.4%

### 退学率の推移（過去3年間）

	H27年度	H28年度	H29年度
在籍者数	151人	154人	143人
退学者数	14人	18人	15人
退学率	9.3%	11.7%	10.5%

年度別学年別在籍者数・退学者数

平成 27 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
在籍者数	41 人	37 人	40 人	33 人
退学者数	3 人	4 人	4 人	3 人

平成 28 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
在籍者数	43 人	30 人	38 人	43 人
退学者数	11 人	1 人	3 人	3 人

平成 29 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
在籍者数	37 人	30 人	32 人	44 人
退学者数	6 人	5 人	3 人	1 人

① 現状と課題

資格取得率について、理学療法士国家試験合格率は平成 27 年度から 29 年度にかけて、全体、新卒者ともに全国平均と同等あるいは全国平均を上回る結果となっている。今後も全国平均の水準以上を維持するべく、国家試験対策の介入方法や卒業判定要件の検討が必要である。

退学率については、過去に比して増加傾向にある。退学理由として学業不振が最も多くあげられ、それに伴った学習意欲の低下が要因として考えられる。アクティブラーニングの導入など、学生に入学早期から学習習慣をつけさせることが肝要である。

② 今後の改善方策

国家試験に関しては、100%合格を目標とする。早い段階から学習習慣を身につけさせ国家試験に関しては、全国平均と同水準以上の合格率を維持することが目標である。4 年次には、実力試験結果（基礎分野）を基に学生の理解度を把握し、成績下位の学生に対しては小グループを編制し、担当教員が個別指導を行い学力の底上げを図る。

また、退学率低減の方策として、学習習慣を身に付けさせるため、1 年次から 3 年次には小テストを実施し、学習の理解を深める。さらに、確認試験を実施し、成績不振者に対しては補習などの学習支援を行う。加えて、進級要件の見直しも検討する。

作業療法学科

評価項目	自己点検
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3



・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4
---	---

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

国家試験合格率の推移（平成27年度，前年度）

作業療法士	当校（現役）	全国（現役）	当校（既卒含む）	全国（既卒含む）
第51回（平成27年度）	96%	94.1%	96%	87.6%
第52回（平成28年度）	94.7%	90.5%	95%	83.7%
第53回（平成29年度）	78.9%	85.2%	80%	77.6%

退学率の推移（過去3年間）

	H27年度	H28年度	H29年度
在籍者数	104人	88人	75人
退学者数	9人	9人	6人
退学率	8.7%	10.2%	8.0%

年度別学年別在籍者数・退学者数

平成27年度	1年	2年	3年	4年
在籍者数	27人	21人	27人	29人
退学者数	4人	2人	2人	1人

平成28年度	1年	2年	3年	4年
在籍者数	20人	21人	21人	26人
退学者数	3人	0人	2人	4人

平成29年度	1年	2年	3年	4年
在籍者数	17人	14人	24人	20人
退学者数	3人	1人	2人	0人

① 現状と課題

就職率は100%を維持し、国家試験の合格率も高い水準を維持することができている。課題として残されている退学率が高いことに関しては、前回の4年間の自己点検においては退学率が11%強であったものの、その後3年間の退学率は8~10%となっており、僅少ではあるものの低減が認められている。退学は1年次に多く、その理由として学業不振によるものが多い。

② 今後の改善方策

更なる退学率の低減に対しての方策としては、専任教員による1年次の学業面のフォローを密に実施していく。

## (5) 学生支援

### 保健看護学科

評価項目	自己評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### ① 現状と課題

就職支援を含むキャリア支援を1年次から行うとともに、チューターからの支援を実施している。就職率は100%であることから、現行通りで継続する。学生相談体制は、チューター制を通じて年に数回は学生面接を実施し、その時期に応じた相談にのっている。精神的な問題で支援が必要な学生は、カウンセリングにつなげるようにしている。

#### ② 今後の改善方策

進路支援・学生相談については、今後も現在の支援を続けていく予定である。

### 介護福祉学科

評価項目	自己評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### ① 現状と課題

進路、就職に関する支援に関して、求人票や編入学等の募集要項はいつでも閲覧できるようにファイリングをして教員室に置いている。担任が進路の窓口になっており、学生の希望を聞きながら必要時に情報提供を行っている。2年次には三者面談を行い、学生、保護者が共に選択・決定できる環境づくりをしている。それにより、学生は希望する職場への就職や進学をしている。

学生相談に関しては、学生からの悩みや要望を教員が受けると共に、教員からも気になる学生への声かけをし、クラスメイトからの情報収集をしている。これは担任に限らず、学科教員で行っている。必要時にはカウンセリングへとつないでいく。

#### ② 後の改善方策

進路、就職に関する支援は現在の方法が成果を上げているので継続して行っていく。学生相談についても、現在の方法を継続して行っていく。

## 理学療法学科

評価項目	自己点検
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### ① 現状と課題

学科内に就職担当者を1名配置して求人情報を管理しており、学生はファイリングされた求人情報を自由に閲覧できる。過去の受験者の就職試験報告書も自由に閲覧可能である。また、就職試験対策で非常勤講師による履歴書作成や面接に関する講習を行っている。さらに、業者や自治体が主催する就職セミナーへの参加も、学内掲示やパンフレット配布により案内している。現在、合同説明会は実施していないが、学生への就職説明を希望する施設については、学科内で日程・会場を調整し、学生への周知を行い、個別に就職説明会を実施している。校内で就職説明会が行われない施設を希望する学生に対しては、早期の施設見学を勧めるとともに個別の相談に応じている。学生相談に関しては、学年担任制を設けており、定期的に個人面談を実施するとともに学生からの相談には適時、対応している。また、必要があれば健康管理担当者への相談や学校カウンセリングを紹介している。

### ② 今後の改善方策

現状を維持するため、求人情報の管理を引き続き行う。また、就職希望調査に基づき、個人にあった求人情報があれば就職担当者もしくは担任から就職指導を行う。さらに、就職試験対策では、専任教員、非常勤講師らによる履歴書作成や面接指導を行う。学習支援や学生相談については引き続き、学年担任制に加え、チューター制も検討する。

## 作業療法学科

評価項目	自己評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

### ① 現状と課題

進路・就職に関する支援体制としては、就職担当者を学科内で設けて求人情報を管理し、適宜学生相談を受け付けている。また、学生が閲覧できるように求人情報を開示している。加えて、最終学年時には外部講師による就職試験対策の講義を実施している。学生相談に関しては、学生生活をより豊かに過ごすための支援として学年担任制を設け

ている。学年担任は定期的に学生と個人面談を実施して悩みなどの解決に必要な助言を与えている。

## ② 今後の改善方策

現状として問題は生じていないため、現在の支援体制を維持していく。

### 学校全体

評価項目	自己評価
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

## ① 現状と課題

学生指導主任，就職支援担当，健康管理担当を各学科に置き学生支援体制を整えている。また，課外活動では各学科教員が顧問に就任しサポートを行っている。

保護者との連携は，最適な時期を選び学科，学年別に懇談会を実施し，学生の状況について情報交換を行っている。一方，同窓会を通じて卒業生への情報発信を行うなど着実に連携を強化している。なお，地域の特性上，社会人が働きながら学ぶニーズがないことから体制は構築していない。

## ② 今後の改善方策

学生支援体制は充実しているが，更なる支援体制の強化を図る。

---

## (6) 教育環境

---

### 学校全体

評価項目	自己評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### ① 現状と課題

指定規則に準拠した教育に必要な施設・設備を整備している。さらに、体育館やグラウンドを備えるなど専修学校の施設・設備としては充実している。外部で行う実習は、必要に応じた実習施設を岡山県内外に確保している。

海外研修では、アメリカの大学と提携しオリジナルプログラムで研修を行える環境を整えている。

また、防災計画を整備し、緊急時の連絡体制も構築している。毎年4月には防災訓練を実施し、不測の事態に陥った場合の対応も備えている。

#### ② 今後の改善方策

教育環境を引き続き整え、施設・設備を随時最新の機器などに更新していく。

---

## (7) 学生の受入れ募集

---

### 学校全体

評価項目	自己評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### ① 現状と課題

学生募集は、設置している広報委員会で審議し、広報活動の年間スケジュールや方法を決め、学校全体として計画的に行っている。また、教育の成果は学校案内や学校のHPなどで情報を発信し周知している。学納金については、十分な教育効果

が得られるよう授業料，施設設備費などを決定している。他の養成校と比較しても大きな差異はなく，妥当と考える。

## ②今後の改善方策

適正な学生数を確保するために，学生のニーズや動向を把握し，学校の魅力を伝えるよう創意工夫を重ねて広報活動を行う。

---

## (8) 財務

---

### 学校全体

評価項目	自己評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	3

自己評価 適切・・・4，ほぼ適切・・・3，やや不適切・・・2，不適切・・・1

## ①現状と課題

学生数の減少に伴い，次第に厳しくなっている。現状が長期化する場合は立て直しが必要となる。教育活動，学生支援活動に支障が無いよう予算を作成し，可能な限り経費の削減に努めている。

財務に関する会計監査は，学園全体の財務を対象に適正に行われている。なお，財務状況については，学園のHPで公開している。

## ②今後の改善方策

学生数の減少に伴い，厳しい状況が続いているため，財務改善のための方策をさまざまな視点で検討する。

---

## (9) 法令等の遵守

---

### 学校全体

評価項目	自己評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	3

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### ① 現状と課題

法令を遵守し、国家資格の受験資格を得られる養成校として必要な施設・設備、人材、実習施設などを確保し、適正に運営している。欠員が生じた場合には早急に補充するよう努力している。また、個人情報については、漏洩に注意し、管理している。

自己評価については、個々人の自己評価に加え、数年に1回のペースで学校全体の自己評価を行い、HP上で公開している。

#### ② 今後の改善方策

法令については、今後も今まで同様遵守する。自己点検評価については、継続して行うが、単年度ごとに自己評価を行う方針に変更する。

---

## (10) 社会貢献・地域貢献

---

### 学校全体

評価項目	自己評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

#### ① 現状と課題

玉野市最大のイベントである「たまの港フェスティバル」ではブースの出展、「玉野まつり」では踊り連として教職員学生が一丸となり毎年参加するなど各種イベントに積極的に参画している。また、玉野市生涯学習センターでの当校の講座、地域

コミュニティーでの健康に関する講演の講師を派遣するなど地域との連携を行っている。

学生ボランティアの募集情報は内容を精査し学生掲示板に掲示、あるいは直接説明を行う場合もある。また、一部の学科ではボランティア活動を学習成果の一部として認定するなど積極的に推進している。

また、学校主催の公開講座の実施や介護福祉士の職業教育訓練生の受け入れも積極的に行っており社会貢献・地域貢献については適正に行っている。

② 今後の改善方策

現在の活動をそのまま継続し、地域貢献に努めたい。

---

## (11) 国際交流

---

### 学校全体

評価項目	自己評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2

自己評価 適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1

① 現状と課題

本校では、学生の交流を目的とした国際交流を行っている。加計学園は18の国や地域の教育機関と国際交流協定を締結し、学生の派遣や受け入れを行っている。毎年6月頃に訪日文化研修団を受け入れ、学生主体の歓迎行事を行っている。一方、当校の学生から希望者を募り、アメリカのシェネンドア大学での研修を実施している。

③ 今後の改善方策

本校への留学希望があれば受け入れ態勢などについて真摯に検討する。



## 2. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

---

今回の評価は、平成 27 年度から平成 29 年度の活動を対象に『専修学校における学校評価ガイドライン』（文部科学省 生涯学習政策局 平成 25 年 3 月策定）に例示された『専門学校の評価項目・指標等を検討する際の視点となる例』を参考に評価項目を設定して行った。前回の評価結果と比較することを念頭に評価項目を敢えて変更せず行った結果、前回評価から後退した事項がないことおよび緊急に対策を講ずる必要がある重大な問題点がないことが確認でき、概ね適切な状態であると言えることがわかった。

また、医療、福祉の現場の変化に応じた教育内容の見直し、あるいは法令の改訂による教育内容の変化にも柔軟に対応できるよう常に情報収集を行う必要があることも再確認することができた。

国家試験については、平成 29 年度より、新たに介護福祉学科の学生も国家試験を受験することとなり、これで保健看護学科、介護福祉学科、理学療法学科並びに作業療法学科で国家試験を受験することとなった。今回調査の国家試験の合格率は、前回調査に比べ改善されているが、手放しで喜べる結果であったとは言い難く今後の課題が残った。全員合格という高い目標を掲げ、学科間で連携、協力し、指導内容、指導方法の改善・改革を図りたい。

退学者に関しては、出さないことがよいのは当然のことであるが、様々な退学理由の中で、学習意欲の低下を理由に退学を希望する学生が少なからずいる現状がある。特に入学時から学力に不安を抱えている学生に対しては、リメディアル教育や教員による補習や個別面談を充実させ、学習意欲の向上に努める必要がある。そのために、学生のちょっとした変化にいち早く気づく必要がある。教職員、保護者および学生との連携をより強固なものとし、一致団結して対応していきたい。

学生募集では、苦戦をしている学科が更に厳しい状況となっている。受験人口の減少に加え、日本の社会全体で抱えている問題もあり、具体的な即効性のある対策は難しいのが現状である。しかし、教育活動に支障のない範囲で出来る限りの募集活動を展開していきたい。

最後に、今後の自己点検・評価の方針について言及する。

本校の母体である学校法人加計学園の方針で設置する学校が独自のビジョンを掲げ、ビジョンを具現化するためのアクションプランを設定し、事業を推進する。自己点検・評価は、KPI 指標を用いて検証する。この評価・検証作業は、毎年実施し、問題点があれば速やかに対応し、教育環境を整えていく。また、職業実践専門課程も視野に入れ、積極的な情報公開、学校関係者などの外部評価も取り入れ、社会のニーズと合致した専門学校として社会に貢献していきたい。

## 編集後記

2003年7月に厚生労働省より「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針」が出され、当校ではこれを受けて2005年7月に自己点検・評価委員会を立ち上げ現在に至っている。

授業評価については、毎年前・後期毎に学生によるアンケート評価と事務職を含む管理職で授業観察を実施している。自己点検・自己評価についても毎年4月に個人で一年間を振り返り評価するとともに、次年度に向けて課題を明確にし、それぞれの立ち位置で役割遂行のために努力している。これらにより学生は紙面上ではあるが自分の気持ちが出せると共に教員を身近に感じているようである。また、教員はアンケート結果から自己の教授方法・内容を振り返ることが出来、学生・教員ともに成長することができ大きなメリットになっている。

今回は、平成27年～29年度までの3年間をまとめ第4回目の自己点検・評価報告書を作成した。前回と同様作成するにあたり学校長を委員長に4学科から各1名の委員を選出し、平成27年7月から4回の会議を持ち検討してきた。検討内容及び評価については委員会のメンバーで検討後、各学科に持ちかえり討議してもらい教職員の意思統一を図った。

その結果教育成果として、保健看護・理学療法・作業療法の3学科の国家試験の合格率は平成27年～29年度にかけては全国平均同等あるいは全国平均を上回る結果となっている。介護福祉学科は平成29年度初めての受験であった。平成30年度は100%合格者を出した。来年もこの合格率を維持出来るように努力したい期待しています。

一方課題としては、18歳人口の減少、大学志向、地域環境、財務など山積しているが、できるところからタイムリーに解決に向けて努力していかなければならない。今後も、学生たちが評価してくれている本校の専門学校としての良いところを保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士を目指す若者にアピールして、将来の医療、看護、福祉の従事者を養成していきたい。

記

学校法人加計学園 玉野総合医療専門学校  
自己点検評価委員会 副委員長  
副校長 祇園壽恵子

平成31年3月

## 平成 30 年度自己評価委員会委員

---

委員長	平井 義一 (校長)
副委員長	祇園 壽恵子 (副校長)
副委員長	北山 順崇 (副校長)
学科代表	三浦 都子 (保健看護学科)
	藤原 美奈子 (介護福祉学科)
	本多 史明 (理学療法学科)
	井村 亘 (作業療法学科)
事務委員	國上 巧一 (事務室長)
	光畑 隆之 (事務課長)
	響尾 香織 (記録係)

### 玉野総合医療専門学校

### 平成30年度自己点検・評価報告書

平成31年3月 発行

編集・発行 学校法人加計学園  
玉野総合医療専門学校自己点検評価委員会